

動物編  
鳥類



## 鳥類の概要

宮城県は高山から砂浜海岸や島嶼まで様々な地形があり、それぞれの環境に適応した多くの鳥類が生息している。蔵王連峰刈田岳から馬の背にかけての高山荒原ではイワヒバリが、五色岳東側の崖地はアマツバメの集団繁殖地になっている。ハイマツ帯ではビンズイ、ホシガラスなどが見られる。亜高山帯となる蔵王のアオモリドマツ帯や船形・栗駒の落葉低木林にはウソ、ルリビタキ、コマドリ、ビンズイ、カヤクグリ、ホシガラス、キクイタダキ、コガラやヒガラなどが見られる。山地帯となるブナ・ミズナラ帯から丘陵地帯となるクリ・コナラ帯ではイヌワシ、クマタカのほかハイタカ、ハチクマ、オオタカ、サシバなどの猛禽類、コノハズク、オオコノハズクなどのフクロウ類のほかアカショウビンやヨタカ、サンショウクイ、ノジコなど多様な鳥種が確認されている。特に栗駒山系一迫川は本州におけるシノリガモの希少な繁殖地となっている。また、船形山系荒沢湿原ではアカショウビンやノジコなどが見られ、オオルリやキビタキなどの個体数も多い。北上山地ではイヌワシの繁殖やチゴモズ、アカモズも確認されている。しかし近年、山地から丘陵地において、かつて植林された広範囲にわたる針葉樹によって生息する鳥種が限定されるとともに広葉樹から針葉樹への林相の変化によりクマタカやイヌワシの獲物の減少が顕著となっている。

仙北平野地帯には伊豆沼湖沼群があり、マガン、ヒシクイ、シジウカラガン、カリガネなどガン類の重要な渡来地となっている。仙台平野の沿岸湖沼群では低湿地や汽水湖があり、その周辺や河川敷ではまとまったヨシ原などが見られる。また、平地は水田などの農地になっており農道や水路周辺では草地環境となっている。この乾性草地ではウズラやコミミズクが、湿性草地ではオオヨシゴイ、オオセッカ、コジュリンが見られ、水際にはシマクイナ、ヒメクイナ、ヨシゴイ、クイナ、ヒクイナが生息している。広大なヨシ原ではチュウヒの飛行もよく見られる。

汽水湖となる蒲生海岸や鳥の海などの干潟では、シロチドリ、ヘラシギ、ホウロクシギなど多くのシギ類やチドリ類や世界的に個体数の少ないカラシラサギやズグロカモメなども見られる。海岸砂浜ではシロチドリやコアシアシガシが繁殖しており、特に蒲生海岸はコアシガシ集団繁殖地の太平洋側北限になっている。

海域に生息するコクガンは堤防や養殖施設に付着している海藻類を食し、河川の流れ込みで飲水し、砂浜に上陸し休息している。気仙沼湾から牡鹿半島にかけての沿岸海域と仙台湾はコクガンの集団越冬地南限となっている。南三陸沿岸海域はオオワシ、オジロワシやヒメウの越冬地となっている。オジロワシは沿岸海域からさらに河川を遡り、平地の湖沼から山地のダム湖まで広範囲で観察される。

牡鹿半島や南三陸海岸および島嶼は急峻な海崖が多く、ハヤブサの生息に適している。特に松島湾の島嶼の多くは人の影響が少ないこともあり、営巣密度が高い地域となっている。ここはまたミサゴの営巣密度も高い。女川湾沖の江島列島は人の住む江島のほか足島、平島、笠貝島などからなり、これらの島はウミネコとオオミズナギドリの集団繁殖地となっている。このほか平島はウミウの国内最大規模の集団繁殖地になっており、足島はウトウの集団繁殖地南限となっている。ここでは繁殖期の夜間にコシジロウミツバメやクロコシジロウミツバメ、ヒメクロウミツバメが飛来しており、繁殖の可能性もある。

金華山沖は海上性の海鳥が観察される。春は移動の時期にウミスズメやアカエリヒレアシシギ、ハイロヒレアシシギがよく観察される。アホウドリやクロアシアホウドリ、コアシアホウドリのアホウドリ類、ハシボソミズナギドリ、ハイロミズナギドリ、アカアシミズナギドリ、オオミズナギドリのミズナギドリ類や時にはアカアシカツオドリやカンムリウミスズメも出現することがある重要な海域となっている。

近年、日本に生息する多くの鳥類の個体数が減少しているといわれている。特に夏鳥、冬鳥、旅鳥といわれる渡り鳥にその傾向が見られる。渡り鳥は国内にとどまらず、南は東南アジアからオセアニア、北はシベリアから北極海沿岸までを広く生息範囲としている。改訂レッドデータブック掲載種検討にあたって、行動範囲の広い鳥類を宮城県という狭い地域だけのデータだけで選定することは難しい。そこで、国内および周辺国の生息状況から掲載を判断している環境省第4次レッドリスト掲載種を参考にし、宮城県に関連する種を掲載検討した。

宮城県内で1960年以降に記録された鳥類は396種である。今回の掲載検討にあたって、県内の陸地はもとより海上については島嶼およびその周辺海域や漁業活動も考慮して日本の領海内における生息種とした。また、宮城県において継続的に繁殖あるいは越冬している種、春や秋の移動の時期に生息する種のうち個体数が減少してしまった種や現在も減少傾向のある種を選定した。

検討の結果、14目22科57種を掲載種として選定した。ミズナギドリ目、カツオドリ目の選定種は沿岸の島嶼や外洋の孤島で繁殖する海上生活者である。ペリカン目、カモ目、ツル目、チドリ目の選定種は、水域や水辺の湿地、干潟など人為の影響を受け易い低地に生息する鳥類である。タカ目、ハヤブサ目やフクロウ目は食物連鎖の上の方に位置するため

に生息地の環境変化などの影響を受け易く、また、営巣適地の減少にもさらされている。キジ目、ブッポウソウ目、スズメ目ほかでは個体数が減少する傾向にある。次にカテゴリーについては、県内だけの生息分布や個体数の変化などからカテゴリー区分要件を適用した。従って環境省カテゴリーと異なる種もあった。

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波によって沿岸部は壊滅的な被害を受けた。仙台市蒲生干潟や亘理町鳥の海の砂浜は消失し潟湖は海とつながった。しかし地形の回復は早く、砂浜堤ができ、海との仕切りとなり干潟が形成された。現在、県内の海岸にて防潮堤防や防災林の工事が進行中であり、これらの工事によって現在も生息環境が変化している現状において鳥類の生息数変動を評価することはできない。従って、今回は干潟に生息するシギ類やチドリ類については変更の検討を行っていない。生息環境の変化が落ち着いた時に改めて評価したい。

鳥類は食物連鎖の高次に位置し、多様な環境に適応して多くの種類がみられることから自然環境の豊かさを示す指標として適した存在といえる。本県の鳥類相は高山帯から平地・沿岸地帯までの自然環境に適応して極めて多様性に富んでいる。しかも人の目に触れやすい市街地周辺にオオタカやハヤブサといった豊かな自然環境を示す種類が観察されるため、絶滅に瀕する種類が増加している状況が一般にはあまり認識されていない。特に猛禽類や湿地や水辺に生息する鳥類については危機的状況の種類が多く、生息環境の保全、復元は本県の自然保護対策における重要な課題といえる。

### 宮城県で記録された鳥類の目別科数及び種数とレッドデータブック掲載種数

目名	科数	種数	RDB掲載種数							
			EX	CR+EN	VU	NT	DD	LP	注目	
キジ目	1	3		1						
カモ目	1	45			2	2			1	1
カイツブリ目	1	5								
サケイ目	1	1								
ハト目	1	2								
アビ目	1	5								
ミスナギドリ目	3	16			2	1				
コウノトリ目	1	1								
カツオドリ目	3	7			1					
ペリカン目	2	18		1		3	1			
ツル目	2	14		1						3
カッコウ目	1	5								
ヨタカ目	1	1				1				
アマツバメ目	1	2								1
チドリ目	10	89			3	4				3
タカ目	2	17		2	3	4	1			
フクロウ目	1	7			1					3
サイチョウ目	1	1								
ブッポウソウ目	2	5								2
キツキ目	1	5								
ハヤブサ目	1	6				1				1
スズメ目	30	131		2	3					2
合計22目	68科	396種		7種	15種	16種	2種	1種		16種

\*分類および種名は日本鳥学会編集「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、2012)による

参考文献

- 1 大八木 昭, 1973. 野鳥, Vol.38, No.1, 日本野鳥の会.
- 2 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998, 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥, 山と溪谷社.
- 3 環境庁, 1978. 鳥類繁殖地図調査報告書.
- 4 環境庁, 1988. 動植物分布調査報告書(鳥類).
- 5 環境庁, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック(脊椎動物編).
- 6 環境庁, 1998, レッドデータ見なおしリスト.
- 7 環境省, 2004, 鳥類繁殖分布調査報告書
- 8 小松哲文・鈴木一博, 1977. 三共沼〔堤〕鳥類目録.
- 9 高野伸二, 1982, フィールドガイド日本の野鳥, 日本野鳥の会.
- 10 田中完一, 1982. 野鳥は空に花は野に.
- 11 東邦大学, 2014. 第114回鳥島アホウドリ調査報告.
- 12 日本鳥学会, 1996. 1996年度日本鳥学会大会講演要旨集, 日本鳥学会.
- 13 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第7版, 日本鳥学会.
- 14 日本野鳥の会編, 1982-1999, Strix, Vol.1-17, 日本野鳥の会.
- 15 日本野鳥の会宮城県支部, 1987~1990. 台原森林公園における鳥類の調査.
- 16 日本野鳥の会宮城県支部, 1991~1993. 三共地区における鳥類の調査.
- 17 日本野鳥の会宮城県支部, 1994~1996. 仙台市七北田川流域における鳥類の調査今市橋から城前大橋.
- 18 日本野鳥の会宮城県支部, 2001~2014. 「雁」, No.190~265号.
- 19 日本野鳥の会宮城県支部, 2002. 宮城県の鳥類分布.
- 20 藤波不二雄・佐藤広巳, 1992. 宮城県網地島の鳥類一冬鳥を中心として, 鳥と自然, No.64, 兵庫野鳥の会.
- 21 細野哲夫, 中村公義 1998, 「長野市に繁殖するチゴハヤブサ一初繁殖の記録」, 市誌研究ながのNo.5, 長野市.
- 22 真木広造・大西敏一・五百澤日丸, 2014. 日本の野鳥650, 平凡社.
- 23 宮城県, 1998. 斗蔵山県自然環境保全地域学術調査報告書.
- 24 宮城県, 1999. 鱒淵観音堂県自然環境保全地域学術調査報告書.
- 25 宮城県, 2000. 宮城県猛禽類生息調査報告書.
- 26 宮城県文化財保護協会, 1984. 翁倉山のイヌワシ.
- 27 森岡照明・山形則男・川田隆・叶内拓哉, 1995. 図鑑 日本のワシタカ類, 文一総合出版.
- 28 山階鳥類研究所, 1998. 山階鳥研NEWS, 第112号 (Vol.10 No.7).
- 29 山階鳥類研究所標識研究室, 1996. 渡り鳥アトラス 鳥類回収記録解析報告書(スズメ目編1961年~1995年).

【鳥類分科会調査員】

氏 名	所 属 等
竹丸 勝朗	日本野鳥の会宮城県支部支部長
小室 智幸	日本野鳥の会宮城県支部副支部長
嶋 孝弘	日本野鳥の会宮城県支部
千葉 孝行	日本野鳥の会宮城県支部
三浦 隆	日本野鳥の会宮城県支部
瓜生 篤	日本野鳥の会宮城県支部
工藤 芳郎	日本野鳥の会宮城県支部
加藤 敬一	日本野鳥の会宮城県支部
山田 洋治郎	日本野鳥の会宮城県支部